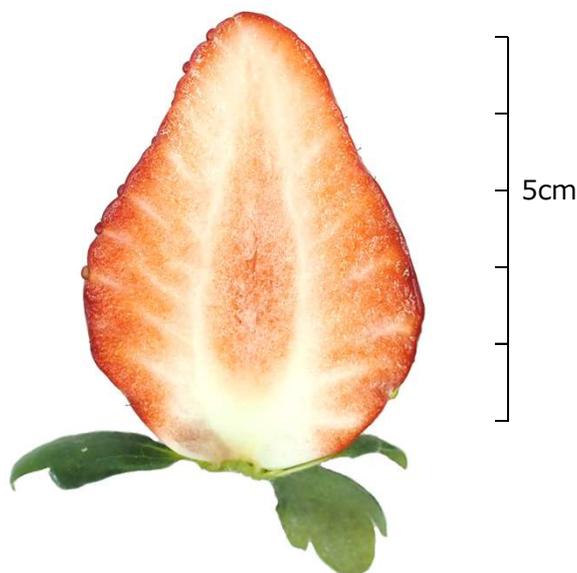




15-2-8の果実



大果・多収・良食味のイチゴ新品種「15-2-8」を開発 (令和3年1月品種登録出願)

本県はイチゴ産出額全国6位で、県内全域に産地があり、「ゆめのか」や「紅ほっぺ」、「章姫」などが栽培されています。

新品種「15-2-8」は、平均一果重が大果性品種の「紅ほっぺ」よりも重く、果形の揃いも良いため、収穫・出荷調整作業の軽減が見込めます。また、早生性かつ連続出

蓄性に優れることから、「紅ほっぺ」に比べて、単価が高い年内～厳寒期で収量が多くなります。果実は高い糖度と適度な酸味を有し、食味は良好で、果肉内部まで鮮やかな赤色を呈します。

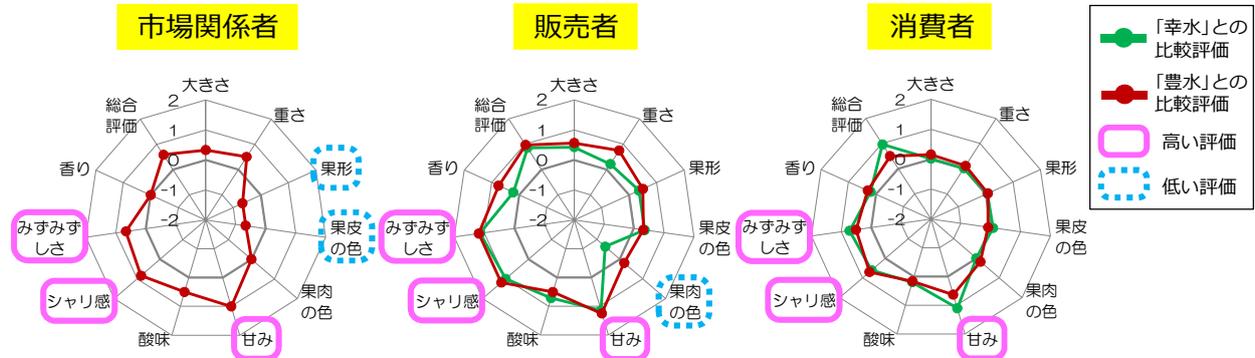
これらの優れた特徴があることから、県内産地への普及が期待されます。

(園芸研究部)

本品種は愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で開発しました。

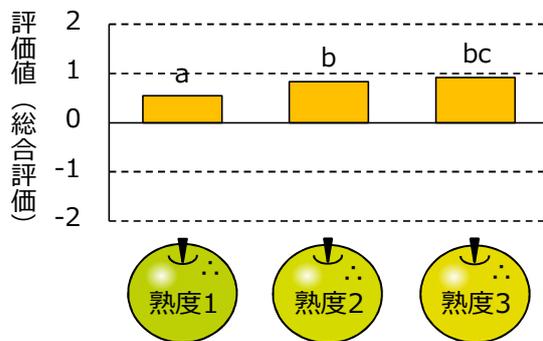


ナシ新品種「^{ずいげつ}瑞月（愛知梨3号）」の販売特性を解明



(「豊水」との比較のみ調査)

市場関係者・販売者・消費者における「瑞月」の食味・外観評価



「瑞月」の熟度別果実に対する消費者の食味評価

- ・果皮色での果実の熟度判断基準1~3（「瑞月」専用）で収穫
- ・異なる英小文字は5%水準で有意差あり（Steel-Dwass法）



「瑞月」の外観

注 上段及び下段左の図は5段階評価（2：とても良い、1：良い、0：普通、-1：悪い、-2：とても悪い）

本県と農研機構が共同開発した早生で良食味なナシ新品種「瑞月」の有利販売方法を検討するため、市場関係者、販売者、消費者による食味及び外観の評価を実施しました。

食味は、甘み、シャリ感、みずみずしさが高く評価されました。

一方、市場関係者と販売者の一部で「幸水」と比べて果肉がやや黄色に見える、「豊水」と比べて果皮の色の赤みが薄い、果形がやや縦長という理由で低く評価されました。しかし、消費者はこれらの項目に

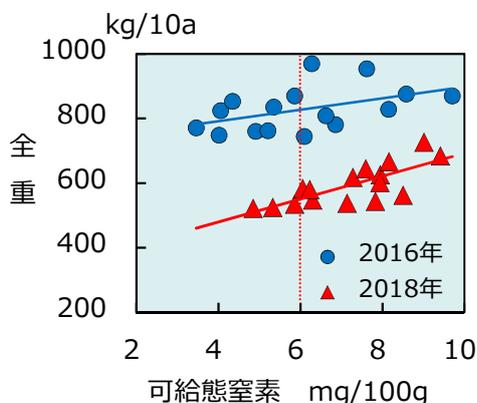
ついては同等の評価でした。

また、果皮色での果実の熟度判断基準1~3（「瑞月」専用）で「瑞月」を収穫し、食味評価した結果は、着色が進んだ2と3は、着色が最も進んでいない1と比較して評価が高くなりました。

以上より、①甘み・シャリ感・みずみずしさが優れることのPR、②外観が「幸水」や「豊水」と異なることの周知、③熟度2~3を目標とした適期収穫に取り組むことで「瑞月」の特性が理解され、信頼性が高まり、有利販売につながると考えられます。

(企画普及部)

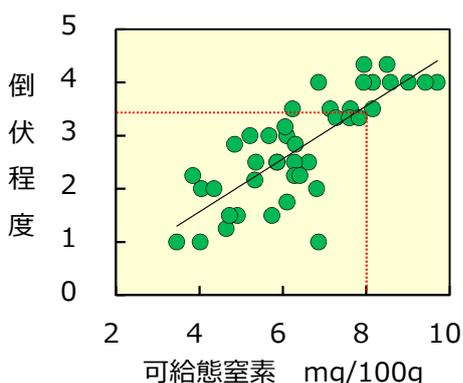
2年3作輪作体系における大豆作の地力改善目標を策定



可給態窒素の増加で大豆の生育量が増加

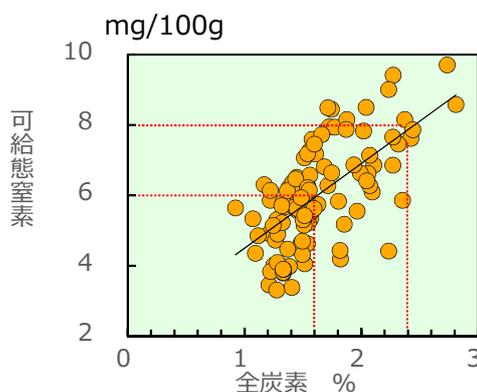


可給態窒素 (少ない) 可給態窒素 (多い)
可給態窒素の違いによる大豆の初期生育の違い



(注) 倒伏程度は0(無)~5(甚)で評価

可給態窒素の増加で大豆の倒伏程度が増大



全炭素含量と可給態窒素の関係

洪積台地で栽培される大豆の地力改善目標を策定しました。

可給態窒素（土壤中の有機物の分解により作物に供給される窒素）が6mg/100g以上になると大豆の生育量は旺盛になり、全重が増加します。しかし可給態窒素が8mg/100g以上になると倒伏程度が3.5以上となり、収量が低下するリスクが高くなります。大豆の生育量を増加させ、倒伏による収量減を回避するためには可給態窒素は

6~8mg/100gが適していると考えられます。

可給態窒素の分析には多くの時間を要するため、可給態窒素と関係性が高く、通常土壌診断項目でもある全炭素で置き換えることができます。その改善目標値は1.6~2.4%となります。

この目標値を洪積台地での2年3作輪作体系における大豆作での堆肥等有機物施用の目安とし、地力の改善に取り組むことにより大豆の安定生産が期待されます。

(環境基盤研究部・作物研究部)

本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」で実施しました。

研究トピックス

省エネ夜間冷房で、夏季高温下での輪ギクの開花遅延を防止

輪ギク栽培では、夏季の高温による開花遅延が問題となっており、その対策としてヒートポンプを用いた夜間冷房の方法を検討しました。

その結果、午前2時から6時まで21℃で夜間冷房を行うことで、無冷房と比較して開花遅延を抑制できました。夏季高温期でも短時間の夜間冷房により出荷の安定が期待されます。

(東三河農業研究所)



輪ギク「精の一世」の開花状況の違い(消灯63日後)
左：無冷房、右：夜間冷房(午前2時から6時まで)

水稻新品種「ミネアサヒSBL」良食味栽培法の検討を始めました

水稻新品種「ミネアサヒSBL」で食味評価「特A」を得るため、良食味栽培法の開発に着手しました。土壌窒素を考慮した施肥方法や登熟向上技術などで玄米タンパク質含量を低減し、食味の向上を目指します。

今年度は穂肥時期や施用量、ケイ酸資材の投入が食味に与える効果を試験場内と現地ほ場で検討しました。今後さらに試験を進めて栽培法を開発し、生産者向けのマニュアルを作成します。

(山間農業研究所)



現地試験ほ場(新城市)

臭気マップで農場の臭気を見える化

畜産経営で最も多い苦情は悪臭です。原因となる臭気を見える化する方法として、畜環研式ニオイセンサで測定した臭気データとGPSロガーで記録した臭気測定の位置データを用いて、地図上に臭気の強弱を表すことができるようになりました。現在、県内農場の臭気マップ作製とそれを利用した臭気対策効果の確認等の実証試験をしています。

(畜産研究部)



畜環研式ニオイセンサ
本研究は農林水産省「農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究：総合的な悪臭低減・臭気拡散防止技術の開発」で実施中です。

「夕焼け姫」栽培マニュアルの作成

2013年に品種登録されたカンキツ「夕焼け姫」の高品質安定生産技術をまとめた栽培マニュアルを作成しました。①マルチ被覆 ②摘蕾・摘果 ③適期収穫の3点を中心に紹介し、そのポイントを写真や表を用いて解説しています。マニュアルは以下のQRコードで「夕焼け姫」Webサイトからダウンロード可能です。

(園芸研究部)



「夕焼け姫」果実とWebサイトリンク